

ストラスブールで学んだ三つのこと

文学部1年 白翰南海

二週間という長い間、実際にフランスで生活してみて学んだものはおそらく私が自覚している以上にあるのだろうが、今の段階で私が学んだ、または獲得できたと思う成果を三つ書く。

一つ目は、生のフランス語の発音とその聞き取り能力が獲得できたと思う。最初のうちは、*bonjour* や *merci* などとても基本的な言葉しか聞き取れず、語学学校の先生が話してくれたフランス語は全然聞き取れなかったし、もちろん意味もほとんど解らなかった。でも、一週間ほど経つとだんだん現地の人々の発音に慣れてきて、相変わらず正確な意味は解らないが、なんとなく言いたいことがわかるようになってきた。それを一番実感したのは研修八日目の家庭訪問の時で、訪問先の夫婦は日本語を全く知らない方ですべてフランス語、たまに英語でお話ししたのだが、おっしゃっていることがなんとなくわかった。もちろんご夫婦が言葉を言い換えて何度か同じ質問を繰り返してくれたおかげでもあると思う。私と、ペアだった渡辺さんは習ったフランス語を使って頑張って質問に答えたり、持ってきたお土産を紹介したり、日本とフランスの違うところをお話ししたりした。日本側はフランスでは自転車に乗っている人が多いとか歩道で待っていると車が止まってくれて優しいなどと伝え、ご夫婦は日本では物を買った時の包装が多いとか電車がすごく混んでいるなどと言っていた。きっと私たちの発音や文法はめちゃくちゃだったと思うが、真剣に聞いてくださり、なによりフランス語で会話出来たのがとてもうれしかった。とても親切な方々だった。

話がそれた。生の発音が身についたというのは、本物のフランス人のような素晴らしい発音ができるようになったというわけではなく、本物の発音が耳に入った、耳で覚えることができた、ということである。例えば、フランスに行くまでは鼻母音というのが言葉で説明されても全然分からなかった。しかしずっとフランス語を聞いているうちに鼻母音とはどんなものなのか分かるようになったし、なんとなく聞き分けられるようになった気がする。

二つ目に、フランスは日本と比べて色々な人種の人が多くいることを学んだ。そして、自国の少数民族の人種の人に対して差別意識や偏見を持たず、対等に接することの重要性、難しさを実感した。街中や学校を歩いていると、いわゆる黒人と呼ばれる方や、ラテン系の方を多く見かけた。日本では最近になって中国や韓国からの留学生や、東南アジアなどから出稼ぎに来る方が増えてきて街中で日本人ではない人を見かけるのも珍しくなくなりはきたものの、その数は少ないしまだまだ閉鎖的であるように思う。また日本人以外の方を見かけると、私はつい嫌悪感というか少し見下すような気持ちを抱いてしまうことがあった。しかし、フランス人はそういう環境に慣れているのだろうか、異なる人種の方同士が同じ職場で働いていたり、普通に談笑していたりする光景を見て、人種の違いなんて気にしないでどん

な人とも対等に接することがとても大切であり、そうすることで居心地の良い社会が作れるのだなと思った。そして日本人以外の人を見るとつい身構えてしまうことを恥ずかしく思った。これからは、まず理解しようとし、どうしたら良い関係性を築けるかを考えるようにしたい。

三つ目に、積極性の大切さを学び、また生活する中で積極性を身につけることができた。まず積極性の大切さについてだが、フランスについて頃は何も分からなくて不安で仕方なかったため、とにかく問題を起こさないようにしよう、あまり冒険はしないようにしよう、とかなり消極的な気持ちになっていた。だから授業中もあまり喋れなかったし、買い物も無言で指差しで済ませていたし、日本人で固まって過ごすことが多かった。しかし、同じ一年生の酒井あむるさんが積極的にフランス語を話し、担当のアレックス先生と仲良くなっているのを見て、とても羨ましく思った。この研修を意味あるものにするには、自分からフランス語を話し、勉強し、行きたいところに行き、やりたいことをやらないといけないと思い、できるだけフランス語を話し、宿舎では授業の復習をし、授業中も分かるところは積極的に発言してアピールし、やりたいことが全部できるように計画を立てて準備して、とにかく挑戦する姿勢を大事にした。下手なフランス語を使うにはとても恥ずかしかったが、なかなか良い経験ができたと思う。最後のレストランでの食事の時、全てフランス語でやり通せたのはとても嬉しかった。失敗を恥ずかしいものではなく、むしろ上達するための糧になるものだとして、積極的にやってみれば、充実感が得られると知った。また、買い物をしたお店の人は私たちがフランス語に不慣れなことを知っているの、ゆっくり話してくれたり英語に変えてくれたりして、とても親切にしてくださったし、知っている表現でフランス語を話すと喜んでくれた。このような人々の優しさは挑戦してみないと気づけなかったことだと思うので、今では頑張ってみてよかったと思う。

改めて振り返ってみると、意外とあっという間で、でもとても濃かった二週間だった。行く前に「フランスってこんなところだよ」「フランス人こんな性格だよ」というようなことをたくさん聞いてはいたが、実際にこの身で体験するのは別物だった。日本とは違う歴史を持ち、違う環境で生きてきたのだなということをしみじみと感じた。考え方や行動が日本人とはやはり違うし、文化も常識も違う。これは実際に行ってみないと分からないことだった。だから、私は今回この研修に参加できて本当に良かったと思う。そしてもう一度行きたいと思うようになった。いったん日本でフランス語をさらに勉強し、もう少しフランス語が上達してからもう一度フランスに行き、その時はもう少し長く滞在してさらにフランス語の力をつけたいと思う。

(2037字)